◇┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳◆

**食科協かわら版　No.341　（2022年度No.19）**　 　2022/5/20

食の行政情報ならびに食中毒情報をお伝えする食科協のメールマガジン

食中毒情報は１回限り　行政情報は原則2回の掲載で削除します

新しいものは*NEW*マークがついております　期限設定のある記事は　期限終了まで掲載

**青字をスクロール　Ctrlキーを押しながらクリック　もしくは右クリックでハイパーリンクを開く**

◇┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻◆



|  |  |
| --- | --- |
| **目次** | **ページ** |
| 1. [**食科協関係**](#食科協関係) | **2-4** |
| **2**[**厚生労働省関係**](#厚生労働省関係) | **4-9** |
| **3**[**食品安全委員会関係**](#食品安全委員会関係) | **9-10** |
| **4**[**農水省関係**](#農水省関係) | **10-20** |
| **5**[**消費者庁関連**](#消費者庁関連)**リコール情報** | **20-21** |
| **6**[**食中毒・感染症**](#食中毒・感染症)  **細菌性食中毒→ウイルス性食中毒→寄生虫→自然毒→感染症→違反品の回収→他**  **各項目発生順で記載　菌種については月により掲載位置が変動しています** | **21-30** |

**総会 議決権行使書・委任状がまだの方は至急お出しください**

**総会は６月７日15時から16時45分まで　ZOOMで開催します**

**１．****[食科協関係](#食科協関係)**

5月13日　　かわら版340号・かわら版ニュース＆トピックス235号を発行。

5月17日　　かわら版ニュース＆トピックス236号を発行。

5月20日　　かわら版341号・かわら版ニュース＆トピックス237号を発行。

**HACCP制度化への対応は自主的な衛生検査から！**

**様々なメーカーのATP検査キットやタンパク検査キット、アレルゲン検査キット、**

**微生物検査の簡易培地、携帯形微生物観察器を実習で体験してみませんか？**

**開催日程が決定いたしました‼　受講申込受付中!!**

**第8回**

**第9回**

**HACCP導入へ向けた迅速検査実習**

主催　　ATP・迅速検査研究会

**当研究会の川崎晋会長による自主衛生管理をテーマとした講義、当会理事によるATPふき取り検査や簡易培地に関する講義の他、実際にATPふき取り検査などの操作や、簡易培地の観察などを体験していただきます。**

**また、皆様の日頃のお悩みにお応えするディスカッションの場も設けます。**

HACCP制度化の動きもあるので、

それに対応して自主検査の充実を図りたい！　**でも……。**

「微生物検査を実施しているが、今後は簡易・迅速に

検査ができる培地の導入も検討している」

「簡易・迅速検査で悩みや再確認したいことがあるけど、

社内で相談できる相手がいない」

「ATPふき取り検査の正しい使い方を知りたい」

「アレルゲン検査を始めたいけど、何から始めれば……？」

**そんなお悩みをお持ちの検査担当者・品質管理担当者様へ、**

**座学と実習をご提供します！　迅速検査を未経験の方も大歓迎！**



**■開 催 日 時：**（内容は両日程とも同一です）

**受付開始　9時30分～**

**第8回：2022年6月16日（木）10時～17時 予定**

**第9回：2022年8月18日（木）10時～17時 予定**

※終了時間は変更になる可能性があります。予めご了承ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況によって中止・延期となる可能性があります。

**■会　　　場：一般財団法人東京顕微鏡院・豊海研究所（東京都中央区豊海町5-1）**

**■定　　　員：12名**

※定員に達し次第、締め切らせて頂きます。

※申込多数の場合は、企業・団体の検査担当者の方を優先させて頂く場合があります。

※大学・専門学校の学生の方もお申し込みも可能です。

※感染防止対策としてマスク着用、手指消毒、体温測定などにご協力をお願いします。

**■受　講　費：賛助会員・法人会員8,000円、一般10,000円**

**（昼食代・テキスト代・白衣・シューズカバー代込み）**

※テキストとして当会15周年記念誌「現場のためのATPふき取り検査マニュアル」を配布します。

※受講者には修了証を発行いたします。

※**公定法などの一般的な食品微生物検査の技術を習得する実習ではありません。**

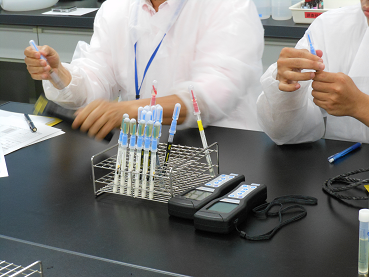
**主な内容 （予定）**

|  |
| --- |
| 【講義】HACCPにおける自主検査の位置づけ、簡易・迅速検査の役割など  【講義・実習】手洗い講習  ※実習では、手洗いチェッカーを用いた手洗い効果の確認を体験していただきます。  【講義・実習】ATP ふき取り検査、タンパク検査、アレルゲン検査、微生物培地の基礎、など  ※実習では、ATP ふき取り検査、タンパク検査キット、アレルゲン検査キット、携帯形微生物観察器を体験して頂きます。また、簡易・迅速培地で培養した一般生菌、大腸菌・大腸菌群などの観察を体験して頂きます。  【質疑応答】事前に受け付けたご質問や、研修会を通じてのご質問などにご回答いたします。 |

〔検査資材・試薬提供（予定）〕

アヅマックス、エア・ブラウン、栄研化学、エルメックス、キッコーマンバイオケミファ、スリーエム ジャパン、東京サラヤ、日水製薬、ニッタ、フォス・ジャパン、mil-kin

**過去の開催時の様子**

**　　　　　　**

**　　　 　**

講義の後、様々な検査キットを体験して頂きます。

沢山の検査キットが一堂に会する、この機会をお見逃しなく！

参加者からは「色々なキットを体験できてわかりやすかった」「講義も実習も今後の参考になると思う」「これまで現場で使っていたが、疑問点が解消できた」「これから迅速検査を導入するので、社内で情報共有したい」など、迅速検査の初心者から熟練者まで、幅広い層に好評なイベントです

**申込み方法**

**下記の項目を明記の上、下記へE メールにてお申込みください。**

**1．住所、2．所属・役職、3．氏名（ふりがな）、 4．参加希望の回（第8回 or 第9回）、5．E - mail、6．電話番号、**

**7．会員or一般（当会の賛助会員・法人会員企業と機能水研究振興財団関係者は会員扱いとなります）**

Ｅメール： [info@ATP-jinsokukensa.com](mailto:info@ATP-jinsokukensa.com)

**↓ウェブサイトからもお申込みいただけます。**

<https://atp-jinsokukensa.com/atp-kouen.htm>

**お問い合わせ**

ATP ・迅速検査研究会 事務局担当：立石（たていし） ＴＥＬ：０９０－２９０７－５４５６

**個人情報保護／**お申し込みの際にご記入いただいた個人情報は、ご本人様の承諾を得ることなく、ATP・迅速検査研究会以外の目的で第三者に提供、開示することはありません。

**利用目的／**お預かりした個人情報は、ご入会・ご継続時の申込管理、ATP・迅速検査研究会のセミナー・勉強会のご紹介、及びこれらに関する各種イベント等のご案内に使用させて頂く場合がございます。

**２.****[厚生労働省関係](#厚生労働省関係)**　<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

**★***Link***傍聴・参加が可能な審議会等の会議一覧　ご案内しきれないときもございます**<https://www.mhlw.go.jp/topics/event/open_doors.html>

**★***Link***副反応疑い報告の状況について（とても詳しい資料です）**

**厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html>

**★***Link***2022年3月31日　国立国際医療研究センター　COVIREGI-JPダッシュボード**

COVID-19 レジストリ研究　“ダッシュボード” 本データの注意点  
<https://www.ncgm.go.jp/pressrelease/2021/20220331.html>  
ダッシュボード  
<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrIjoiNGJlMmZmNDctMDk0NC00MjkwLTk0NDgtYmM1MGFkYjNhN2RiIiwidCI6IjZmOGFmOWFkLTU2NDctNGQ2My1hYjIxLWRiODk0NTM3MzJmNyJ9>  
NCGM COVID-19 治療フローチャート（中等症以上成人)  
<https://www.ncgm.go.jp/covid19/pdf/20220322NCGM_COVID-19_Flow_chart_v5.pdf>

**■***NEW***「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（農薬等（スピノサド等７品目）の残留基準の設定又は改正）及び「食品衛生法第13条第３項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質の一部を改正する件（案）」に関する御意見の募集について　2022/5/16**

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220028&Mode=0>

　受付開始日時 2022年5月16日0時0分

受付締切日時 2022年6月14日23時59分

**■***NEW***第79回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和４年度第３回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）　資料**

**令和４年５月13日（金）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00042.html>

**■***NEW***小児の原因不明の急性肝炎について（令和4年5月13日）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25680.html>

　世界各国において小児における原因不明の急性肝炎が継続して報告されています。世界保健機関（WHO）では、この急性肝炎の原因特定を目的として、暫定的な症例定義を定め、各国に症例定義に該当するケースの報告を求めています。

厚生労働省ではこうした事案について、令和４年４月20日に自治体等に対し、注意喚起及び情報提供依頼、4月27日に当該事例の感染症サーベランス及び積極的疫学調査についての事務連絡を発出しているところです。

暫定症例定義（※）に該当する2021年10月１日から2022年５月12日10時までの累積報告症例数を別添の通り公表します。今後も、定期的に症例報告の状況をとりまとめて公表していきます。

厚生労働省としては、引き続き、各国政府やＷＨＯ、専門家等とも連携しつつ、諸外国の感染状況を注視しながら、情報収集に努めてまいります。

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。

※ 暫定症例定義は以下のとおりとする。「欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について（協力依頼）」（令和４年４月27日付厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡）

2021年10月1日以降に診断された原因不明の肝炎を呈する入院例のうち、以下の１、２、３のいずれかを満たすもの：

１確定例 現時点ではなし。

２可能性例 アスパラギン酸トランスアミナーゼ(AST)又はアラニントランスアミナーゼ(ALT)が500 IU/Lを超える急性肝炎を呈した16歳以下の小児のうちA型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

３疫学的関連例 ２の濃厚接触者である任意の年齢の急性肝炎を呈する者のうち、A型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

小児の原因不明の急性肝炎について（令和4年5月13日報道発表）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000938542.pdf>

関連情報

その他の感染症（13　欧州及び米国における小児の原因不明の重篤な急性肝炎について）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou19/index.html>

**■小児の原因不明の急性肝炎について（令和4年5月6日）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25548.html>

　　世界保健機関（WHO）の報告によると、５月６日現在、12カ国で少なくとも169例（死亡１名）の小児における原因不明の急性肝炎が継続して報告されています。うち、74例でアデノウイルスが検出されていますが、原因ウイルス等については不明であるとされています。また、小児における急性肝炎が実際に増加しているのかについても、不明であるとしています。WHOでは、この急性肝炎の原因特定を目的として、暫定的な症例定義を定め、各国に症例定義に該当するケースの報告を求めています。

　　厚生労働省ではこうした事案について、令和４年４月20日に自治体等に対し、注意喚起及び情報提供依頼、4月27日に当該事例の感染症サーベランス及び積極的疫学調査についての事務連絡を発出しているところです。

暫定症例定義（※）の２「可能性例」に該当する2021年10月１日から2022年５月５日18時までの累積報告症例数を以下の通り公表します。今後も、定期的に症例報告の状況をとりまとめて公表していきます。

　　厚生労働省としては、引き続き、各国政府やＷＨＯ、専門家等とも連携しつつ、諸外国の感染状況を注視しながら、情報収集に努めてまいります。

　　報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。

※ 暫定症例定義は以下のとおりとする。「欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について（協力依頼）」（令和４年４月27日付厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡）

2021年10月1日以降に診断された原因不明の肝炎を呈する入院例のうち、以下の１、２、３のいずれかを満たすもの：

１確定例 現時点ではなし。

２可能性例 アスパラギン酸トランスアミナーゼ(AST)又はアラニントランスアミナーゼ(ALT)が500 IU/Lを超える急性肝炎を呈した16歳以下の小児のうちA型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

３疫学的関連例 ２の濃厚接触者である任意の年齢の急性肝炎を呈する者のうち、A型～E型肝炎ウイルスの関与が否定されている者。

小児の原因不明の急性肝炎について（令和4年5月6日報道発表）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000936031.pdf>

関連情報

その他の感染症（13　欧州及び米国における小児の原因不明の重篤な急性肝炎について）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou19/index.html>

**■***NEW***原子力災害対策特別措置法第20条第２項の規定に基づく食品の出荷制限の解除　2022/5/13**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25673.html>

　本日、原子力災害対策本部は、岩手県に対し、原子力災害対策特別措置法に基づき出荷制限が指示されていた、岩手県一関市において産出されたナメコ（露地において原木を用いて栽培されたものに限る。）のうち、県の定める管理計画に基づき管理されるものについて、出荷制限の解除を指示しました。

１　岩手県に対して指示されていた出荷制限の対象品目のうち、一関市において産出されたナメコ（露地において原木を用いて栽培されたものに限る。）のうち、県の定める管理計画に基づき管理されるものについて、本日、出荷制限が解除されました。

（１）本日付けの原子力災害対策本部から岩手県への指示は別添１のとおりです。

（２）岩手県の申請は、別添２のとおりです。

２　なお、原子力災害対策特別措置法の規定に基づく食品の出荷制限及び摂取制限の指示の一覧は、参考資料のとおりです。

【参考１】 原子力災害対策特別措置法 －抄－

（原子力災害対策本部長の権限）

第２０条 （略）

２ 原子力災害対策本部長は、当該原子力災害対策本部の緊急事態応急対策実施区域及び原子力災害事後対策実施区域における緊急事態応急対策等を的確かつ迅速に実施するため特に必要があると認めるときは、その必要な限度において、関係指定行政機関の長及び関係指定地方行政機関の長並びに前条の規定により権限を委任された当該指定行政機関の職員及び当該指定地方行政機関の職員、地方公共団体の長その他の執行機関、指定公共機関及び指定地方公共機関並びに原子力事業者に対し、必要な指示をすることができる。

３～１０ （略）

【参考２】

「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」（原子力災害対策本部：最終改正 令和４年３月30日）

（別添１）　<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000938338.pdf>

（別添２）　<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000938339.pdf>

（参考資料）　<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/000938340.pdf>

**■食品中の放射性物質の検査結果について（１２８７報）　2022/5/11**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25497.html>

**■食品中の放射性物質の検査結果について（１２８６報）　2022/5/6**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25463.html>

　２　緊急時モニタリング又は福島県の検査結果

　　 ※ 基準値超過　１件

　　　　No.34　　福島県　　イノシシ　　（Cs ： 250 Bq / kg )　 桑折町

**■***NEW***食品安全情報（微生物）No.10/ 2022（2022.05.1）　2022/5/11**

[http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202210m.pdf](http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202210m.pdf%20)

**目次**

**【世界保健機関（WHO）】**

1. 2022 年世界食品安全デー：安全で栄養のある食品がヒトの健康維持に果たす役割に注目

**【米国食品医薬品局（US FDA）】**

1. 米国食品医薬品局（US FDA）が乳幼児用調製粉乳に関連して発生しているクロノバクター（Cronobacter sakazakii）感染に関する苦情を調査（2022 年 4 月 29 日付更新情報）

**【米国疾病予防管理センター（US CDC）】**

1. ベビーホウレンソウに関連して複数州にわたり発生した大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイク（2022 年 1 月 6 日付最終更新）

**【Morbidity and Mortality Weekly Report（CDC MMWR）】**

1. クルーズ船で発生した急性胃腸炎に関する報告（船舶疾患データベース・報告システム、米国、2006～2019 年）

**【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】**

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

**【英国保健安全保障局（UK HSA）】**

1. 英国保健安全保障局（UK HSA）が菓子製品に関連して発生しているサルモネラ感染患者に関する更新情報を発表（2022 年 5 月 6 日、4 月 29 日付更新情報）

**【英国食品基準庁（UK FSA）】**

1. 英国食品基準庁（UK FSA）長官が学校における食品基準向上のためのパイロットプログラム案を歓迎

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.10/ 2022（2022.05.11）　2022/5/11**

[http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202209c.pdf](http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202209c.pdf%20)

**＜注目記事＞**

**【【FDA】 FDA は食品中の有害元素への暴露をさらに低減するためにジュース中の鉛を**

**制限する**

米国食品医薬品局（FDA）は、子供における食品中の有害元素（鉛、ヒ素、カドミウム、水銀）への暴露を減らすための科学に基づいたアプローチ「よりゼロに近づける（Closer to Zero）」行動計画の一環として、果物ジュース中の鉛に関するアクションレベルを示す事業者向けガイダンス案を発表した。このガイダンス案へのコメントを 60 日間受け付けており、その後、最終化された場合には、ジュース HACCP ガイダンスに記された現行基準の 50 ppb に取って代わる。FDA は、事業者が現行適正製造基準（CGMP）の範囲内で鉛を最小限にするための措置を講じれば達成可能な値であると考えている。

**＜鉛のアクションレベル案＞**

・濃縮していない（そのまま飲める）リンゴジュース：10 ppb

・その他の濃縮していないジュース及びブレンドジュース（リンゴジュースを混合したものも含む）：20 ppb

＊ポイント： FDA のよりゼロに近づける行動計画に関連した最初の具体的なリスク管理の提案です。対象の 4 つの有害元素のうち鉛にはすでに暫定参照値（interim reference levels: IRLs）が設定されていたため、他の有害元素よりも先に、子供による消費量の多い製品を対象にしたアクションレベルが提案されました。今後、他の有害元素についても段階的にアクションレベルの設定に向けた取組が行われる予定です。また、今回 FDA が提案しているアクションレベルは国際規格である Codex の最大基準値よりも低い値が採用されていますが、米国内で流通する国産・輸入品のデータに基づき設定したためと説明しています。

**【FDA】 FDA は CBD 及びデルタ 8 THC 製品を違法に販売している企業に対して警告**

**文書を発行する**

FDA は、連邦食品・医薬品・化粧品法（FD&C 法）に違反するとして、デルタ-8 テトラヒドロカンナビノール（デルタ-8 THC）を含むと表示した製品を販売した 5 社に警告文書を発行した。今回の措置は、FDA がデルタ-8 THC を含む製品に対して警告文書を発した初めての事例である。デルタ-8 THC は向精神作用と中毒作用を持ち、消費者にとって危険である可能性がある。デルタ-8-THC を高濃度に含む製品は、キャンディ、クッキー、朝食用シリアル、チョコレート、グミ、ベイプカートリッジ（カート）、チンキ、煎じた飲料など、それ以外にも様々な形態で販売されている。

＊ポイント： 米国では 2020 年末頃からデルタ-8 THC 製品による有害事象の報告が増加しており問題になっていました。子供が興味を持つような包装の製品もあることから子供の被害も多数報告されています。デルタ-8 THC は大麻植物に天然に含まれる成分ですが、量が少ないことからカンナビジオール（CBD）から人工的に製造されるのが一般的です。そのため FDA は、デルタ-8 THC そのものによる作用だけでなく、その製造方法、使用される化学物質や副生成物が不明なことから、それらによる健康への有害性についても懸念しているようです

**3.****[食品安全委員会関係](#食品安全委員会関係)**　<https://www.fsc.go.jp/>

**■***NEW***食品安全委員会（第859回）の開催について　2022/5/19**

**最近、発表が遅く、締め切りが早くなっております。参加をご希望の場合は、各自ご確認ください**

標記会合を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会合については、傍聴者を入れずに開催いたしますが、本会合の様子については、下記４のとおり、web上で動画配信することといたしました。

議事録につきましては、後日、食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>） に掲載いたします。大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

記

１．開催日時：令和4年5月24日（火）　１４：００〜

２．開催場所：食品安全委員会 大会議室　（港区赤坂５−２−２０ 赤坂パークビル２２階)

３．議事

　（１）農薬第三専門調査会における審議結果について

　　 ・「メトブロムロン」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

（２）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見について

　・農薬「ゾキサミド」に係る食品健康影響評価について

・動物用医薬品「アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）」に係る食品健康影響評価について

　　 ・動物用医薬品「チオプロニン」に係る食品健康影響評価について

・飼料添加物「エンラマイシン」に係る食品健康影響評価について

（３）その他

４．動画視聴について：本会合の様子の動画視聴を希望される方は、5月23日（月）12時までに内閣府共通意見等登録システム（<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1176.html>にて、氏名、所属、電話番号及びメールアドレスを御登録いただきますようお願いいたします。視聴をお申し込みいただいた方には、御登録いただいたメールアドレス宛てに、視聴に必要なURLを、5月24日（火）12時までに御連絡いたします。なお、当日の資料につきましては、同日14時までに食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>）に掲載いたします。

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai804.html>

<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/> 　**←発表がない場合はこちらからご確認ください**

**会議の結果は下記から確認できます**

**★***Link***食品安全委員会　開催実績リンク　開催日時、配付資料、議事録等**

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>

　<https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_hisiryou_muramidase_030512.html>

**■加熱と調理「ハンバーグ編」　2022/4/27**

<https://www.youtube.com/watch?v=57RKgz22RNs>

**■***NEW***食品安全関係情報更新（令和4年3月26日から令和4年4月15日）2022/4/28**

[https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from\_year=2022&from\_month=3&from\_day=26&to=struct&to\_year=2022&to\_month=4&to\_day=15&max=100](https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from_year=2022&from_month=3&from_day=26&to=struct&to_year=2022&to_month=4&to_day=15&max=100%20)

**４．****[農水省関係](C:\\Users\\shokkakyo\\AppData\\Roaming\\Microsoft\\Word\\農水省関係)**<https://www.maff.go.jp/>

**★***Link***ウクライナ情勢に関する農林水産業・食品関連産業事業者向け相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/sodan.html>

**■***NEW***フランスからの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/19**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220519_3.html>

　　農林水産省は、5月18日（水曜日）にフランスのロワレ県からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

フランスのロワレ県の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、フランス家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

フランス家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和４年５月１８日（水曜日）にロワレ県からの生きた家きん、家きん肉等の輸入を一時停止（※）しました。

　　これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。

動物検疫所：<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■***NEW***米国からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/19**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220519_4.html>

　　農林水産省は、5月19日（木曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）ニュージャージー州、ノースダコタ州及びワイオミング州からの生きた家きん、家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国ニュージャージー州、ノースダコタ州及びワイオミング州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年5月19日（木曜日）にニュージャージー州、ノースダコタ州及びワイオミング州からの生きた家きん、家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

【生きた家きん（家きんの初生ひな及び種卵）】

ニュージャージー州全域

（参考）生きた家きんについては、ノースダコタ州は令和4年4月1日以降、ワイオミング州は令和4年4月4日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

ニュージャージー州モンマス郡、ノースダコタ州バーク郡及びワイオミング州リンカーン郡（発生郡）

　※1 発生国又は地域から生きた家きん、家きん肉、家きん卵等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた家きんがウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

※2 米国家畜衛生当局から提供された情報により、当該発生が野鳥に由来するものであって、防疫措置により適切に郡内で封じ込められていることが確認できたため、二国間で設定した輸入条件に基づき、本措置の対象範囲を発生郡としています。

これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。

動物検疫所：<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■***NEW***北海道白老町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内20例目）に係る移動制限の解除について　2022/5/19**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220519.html>

　北海道は、白老町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内20例目）に関し発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）北海道は、白老町の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内20例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました

（2）北海道は、白老町で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年5月14日（土曜日）午前0時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、北海道は、国内20例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月27日の翌日から起算して21日が経過する令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

　　3.参考

北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内20例目）及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の開催について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220416.html>

北海道で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内20例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220420_2.html>

北海道白老町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内20例目）に係る搬出制限の解除について

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220516.html>

**■***NEW***北海道釧路市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内23例目）に係る移動制限の解除について　2022/5/19**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220519_2.html>

　北海道は、釧路市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内23例目）に関し発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）北海道は、釧路市の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内23例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）北海道は、釧路市で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年5月8日（日曜日）午前0時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、北海道は、国内23例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月27日の翌日から起算して21日が経過する令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**3.参考**

**北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内23例目）及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220426.html>

**北海道で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内23例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220428.html>

**北海道釧路市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内23例目）に係る搬出制限の解除について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220509.html>

**■***NEW***北海道で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内25例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220518.html>

　北海道網走市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内25例目）について、動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）北海道網走市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内25例目、5月14日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果、高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/17**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220517.html>

　　農林水産省は、5月17日（火曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）アイダホ州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国アイダホ州の家きん飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年5月17日（火曜日）にアイダホ州からの家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

（参考）生きた家きんについては、令和4年4月19日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

アイダホ州エイダ郡（発生郡）

**■***NEW***米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/16**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220516_2.html>

　農林水産省は、5月16日（月曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）ワシントン州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

米国ワシントン州の家きん飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨米国家畜衛生当局から情報提供がありました。

2.対応

米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年5月16日（月曜日）にワシントン州からの家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。

（参考）生きた家きんについては、令和4年5月9日以降、一時輸入停止措置をしています。

【家きん肉、家きん卵等（※2）】

ワシントン州ピアース郡、クララム郡、ワットコム郡及びオウカノガン郡（発生郡）

**■***NEW***北海道白老町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内20例目）に係る搬出制限の解除について　2022/5/16**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220516.html>

　　北海道は、白老町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内20例目）に関し発生農場の半径3kmから10km以内の区域に設定している搬出制限について、令和4年5月14日（土曜日）午前0時（5月13日（金曜日）24時）に解除しました。

今後、北海道は、国内20例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時)をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

1.今後の予定

（1）北海道は、白老町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内20例目）に関し、令和4年5月14日（土曜日）午前0時（5月13日（金曜日）24時）、発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（2）今後、北海道は、国内20例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月27日の翌日から起算して21日が経過する、令和4年5月19日（木曜日）午前0時（5月18日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

**■***NEW***北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内25例目）及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/5/14**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220514.html>

本日（5月14日（土曜日））、北海道網走市の採卵鶏農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内25例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定します。

1.農場の概要

所在地：北海道網走市

飼養状況：約760羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（5月13日（金曜日））、北海道は、網走市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対して移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（5月14日（土曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***岩手県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/5/13**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220513_1.html>

　岩手県一関市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目）について、動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）岩手県一関市の家きん飼養施設で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目、5月12日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果、高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***米国からの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/13**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220513.html>

**農林水産省は、5月12日（木曜日）にアメリカ合衆国（以下「米国」という。）アイダホ州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。**

**1.経緯**

**米国アイダホ州の家きん飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、米国家畜衛生当局から情報提供がありました。**

**2.対応**

**米国家畜衛生当局からの情報提供を受け、本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年5月12日（木曜日）にアイダホ州からの家きん肉等の輸入を以下のように一時停止（※1）しました。**

**（参考）生きた家きんについては、令和4年4月19日以降、一時輸入停止措置をしています。**

**【家きん肉、家きん卵等（※2）】**

**アイダホ州キャニオン郡（発生郡）**

**■香港向け家きん由来製品の輸出再開について（宮城県）　2022/5/12**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220512_6.html>

　本日より、宮城県からの香港向けの家きん由来製品の輸出が再開されましたのでお知らせします

概要

令和3年11月10日の秋田県における高病原性鳥インフルエンザ発生以降、輸出相手国・地域との間で地域主義の適用について協議を行い、主な輸出先である香港やシンガポール当局からは非発生県からの家きん由来製品の輸出継続が認められています。

これまで、高病原性鳥インフルエンザが発生した12県のうち、10県について香港当局から清浄性が認められ、輸出を再開してきたところ、今般、宮城県についても清浄性が認められ、当該県からの家きん由来製品の輸出再開について合意しました。

これにより、本日から、動物検疫所において香港向けの輸出に必要な輸出検疫証明書の交付を再開しました。

引き続き、他の輸出先国・地域との協議を行ってまいります。

なお、先に輸出再開した10県のうち、青森県及び秋田県については、再開後に高病原性鳥インフルエンザが発生したため、輸出は停止しております。

＜2021年1-12月の輸出額＞

香港向け鶏肉：9.8億円（鶏肉の総輸出額13.0億円）

香港向け鶏卵：57.3億円（鶏卵の総輸出額58.7億円）

出典：財務省「貿易統計」

＜これまでの経過＞

令和3年11月10日：日本全国からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和3年11月10日：秋田県以外で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年1月31日：秋田県、兵庫県、熊本県、埼玉県、広島県及び青森県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年3月4日：鹿児島県及び愛媛県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年3月18日：千葉県及び岩手県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

令和4年3月25日：宮城県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年4月8日：青森県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年4月16日：北海道からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年3月19日：秋田県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年5月12日：宮城県で生産及び処理された家きん由来製品の香港向け輸出を再開

参考

動物検疫所ホームページ　URL：<https://www.maff.go.jp/aqs/>

**■北海道網走市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内21例目）に係る移動制限の解除について　2022/5/12**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220512.html>

　北海道は、網走市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内21例目）に関し発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）北海道は、網走市の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内21例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）北海道は、網走市で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年5月9日（月曜日）18時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、北海道は、国内21例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月20日の翌日から起算して21日が経過する令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**3.参考**

**北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内21例目）及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220416_6.html>

**北海道で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内21例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220420_1.html>

**北海道網走市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内21例目）に係る搬出制限の解除について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220510.html>

**■秋田県大仙市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内22例目）に係る移動制限の解除について　2022/5/12**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220512_4.html>

　　秋田県は、同県大仙市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内22例目）に関し、発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）秋田県は、同県大仙市の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内22例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）秋田県は、同県大仙市で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年5月1日（日曜日）0時（令和4年4月30日（土曜日）24時）に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、秋田県は、国内22例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月20日の翌日から起算して21日が経過する令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**■岩手県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内24例目）及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/5/12**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220512_5.html>

　　本日（5月12日（木曜日））、岩手県一関市の家きん飼養施設において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内24例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定します。

1.農場の概要

所在地：岩手県一関市

飼養状況：10羽

2.経緯

（1）昨日（5月11日（水曜日））、岩手県は、同県一関市の家きん飼養施設から、だちょう（エミュー）の死亡がみられるとの通報を受けて、立入検査を実施し、当該だちょう（エミュー）について鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました

（2）本日（5月12日（木曜日））、当該だちょう（エミュー）について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■青森県横浜町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内18及び19例目）に係る移動制限の解除について　2022/5/11**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220511.html>

　　青森県は、同県横浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内18及び19例目）に関し、発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年5月11日（水曜日）午前0時（5月10日（火曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）青森県は、同県横浜町の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内18及び19例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）青森県は、同県横浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年5月4日（水曜日）17時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、青森県は、国内18及び19例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月19日の翌日から起算して21日が経過する令和4年5月11日（水曜日）午前0時（5月10日（火曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**3.参考**

**青森県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内18例目）及び「農林水産**

**省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220408_4.html>

**青森県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内18例目）の遺伝子解析及び**

**NA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220412.html>

**青森県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内19例目）及び「農林水産**

**省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220415_3.html>

**青森県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内19例目）の遺伝子解析及び**

**NA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220420_3.html>

**青森県横浜町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内18及び19例目）に係る搬出制限の**

**解除について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220506_6.html>

**■群馬県における豚熱の確認（国内81例目）及び「農林水産省豚熱・アフリカ豚熱防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/5/10**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220510_5.html>

　　本日、群馬県桐生市の養豚農場において家畜伝染病である豚熱の患畜が確認されたことを受け農林水産省は本日、「農林水産省豚熱・アフリカ豚熱防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の防疫方針について決定します。

現場及び周辺地域にも本病のウイルスが存在する可能性があり、人や車両を介して本病のまん延を引き起こすおそれがあります。現場及び周辺地域での取材は、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：群馬県桐生市

飼養状況：約5,500頭

2.経緯

（1）群馬県は、同県桐生市の農場から、死亡頭数が増加している旨の通報を受け、昨日（5月9日（月曜日））、当該農場に立ち入り、病性鑑定を実施しました。

（2）群馬県の検査により豚熱の疑いが生じたため、農研機構動物衛生研究部門（注）で精密検査を実施したところ、本日（5月10日（火曜日））、豚熱の患畜であることが判明しました

**■ブルガリアからの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/5/10**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220510_4.html>

　　農林水産省は、5月10日（火曜日）にブルガリアのガブロヴォ州からの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

ブルガリアのガブロヴォ州の家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された旨、ブルガリア家畜衛生当局から国際獣疫事務局（OIE）に通報がありました。

2.対応

ブルガリア家畜衛生当局からの通報を受け、同病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年5月10日（火曜日）にガブロヴォ州からの家きん肉等の輸入を一時停止（※）しました。

（参考）生きた家きんについては、2国間で輸入条件が設定されていないため、従前より輸入できません。

これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。

動物検疫所：<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■北海道網走市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内21例目）に係る搬出制限の解除について　2022/5/10**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220510.html>

　　北海道は、網走市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内21例目）に関し発生農場の半径3kmから10km以内の区域に設定している搬出制限について、令和4年5月9日（月曜日）18時に解除しました。

今後、北海道は、国内21例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時)をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

1.今後の予定

（1）北海道は、網走市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内21例目）に関し、令和4年5月9日（月曜日）18時、発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（2）今後、北海道は、国内21例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、発生農場の防疫措置が完了した令和4年4月20日の翌日から起算して21日が経過する、令和4年5月12日（木曜日）午前0時（5月11日（水曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

**3.参考**

**北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内21例目）及び「農林水産**

**省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220416_6.html>

**北海道で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内21例目）の遺伝子解析及び**

**NA亜型の確定について**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220420_1.html>

**■シンガポール向け家きん由来製品の輸出再開について（宮城県）　2022/5/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220506.html>

　本日より、宮城県からのシンガポール向けの家きん由来製品の輸出が再開されましたのでお知らせします。

概要

令和3年11月10日の秋田県における高病原性鳥インフルエンザ発生以降、輸出相手国・地域との間で地域主義の適用について協議を行い、主な輸出先である香港やシンガポール当局からは非発生県からの家きん由来製品の輸出継続が認められています。

これまで、高病原性鳥インフルエンザが発生した12県のうち、10県についてシンガポール当局から清浄性が認められ、輸出を再開してきたところ、今般、宮城県についても清浄性が認められ、当該県からの家きん由来製品の輸出再開について合意しました。

これにより、本日から、動物検疫所においてシンガポール向けの輸出に必要な輸出検疫証明書の交付を再開しました。

引き続き、他の輸出先国・地域との協議を行ってまいります。

なお、先に輸出再開した10県のうち、青森県及び秋田県については、再開後に高病原性鳥インフルエンザが発生したため、輸出は停止しております。

　＜これまでの経過＞

令和3年11月10日：日本全国からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和3年11月12日：秋田県以外で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年1月26日：秋田県、兵庫県、熊本県、埼玉県、広島県及び青森県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年2月22日：鹿児島県及び愛媛県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年3月22日：千葉県及び岩手県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

令和4年3月25日：宮城県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年4月8日：青森県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年4月16日：北海道からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年3月19日：秋田県からの家きん由来製品の輸出を一時停止

令和4年5月6日：宮城県で生産及び処理された家きん由来製品のシンガポール向け輸出を再開

参考

動物検疫所ホームページ

[URL：https://www.maff.go.jp/aqs/](file:///C:\Users\shokkakyo\AppData\Roaming\Microsoft\Word\URL：https:\www.maff.go.jp\aqs\)

**■青森県横浜町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内18及び19例目）に係る搬出制限の解除について　2022/5/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/220506_6.html>

　　青森県は、同県横浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内18及び19例目）に関し、発生農場の半径3kmから10km以内の区域に設定している搬出制限について、令和4年5月4日（水曜日）17時に解除しました。

今後、青森県は、国内18及び19例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、令和4年5月11日（水曜日）午前0時(5月10日（火曜日）24時)をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

1.今後の予定

（1）青森県は、同県横浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内18及び19例目）に関し、令和4年5月4日（水曜日）17時、発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（2）今後、青森県は、国内18及び19例目の移動制限区域内で、当該疾病の新たな発生が認められなければ、令和4年5月11日（水曜日）午前0時（5月10日（火曜日）24時)をもって、当該移動制限を解除する見込みです。

**５.****[消費者庁関連](#消費者庁関連)**

<https://www.caa.go.jp/>

**「消費者庁」になりすましたTwitter、Facebookアカウントにご注意ください。**

**■栄養成分表示を活用するための普及啓発動画　2022/5/12**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/nutrient_declearation/consumers/movie/>

**消費者庁リコール情報サイト**<https://www.recall.caa.go.jp/>

**（回収中か否かに関わらず、だいたい一回の掲載で消去します）**

**★マルハニチロ「子持ちからふとししゃも」 - 返金／回収　消費期限の表示欠落（本来の消費期限：2022年5月19日）　2022/5/19**

**★持留豆腐店「本にがりとうふ、味付け揚げとうふ、揚げとうふ、もめんとうふ」 - 回収　本にがりとうふに害虫が混入していたことが判明　2022/5/19**

**★高知県農業協同組合「にら小袋」 - 回収　ビタミンKの摂取をする上での注意事項の表示欠落　2022/5/19**

**★ミートショップまえじま「もち豚チャーシュー」 - 返金／回収　アレルゲン「小麦」の表示欠落　2022/5/19**

**★酢屋亀本店「七味辛みそ、山椒みそ、ごま味噌」 - 返金／回収　賞味期限の誤表示（賞味期限が6ヶ月（180日）のところ、1年先を印字）　2022/5/19**

**★神戸物産「チェダーチーズバー」 - 返金／回収　一部商品でカビの発生を認めたため　2022/5/18**

**★山吹「ちーず竹輪」 - 返金／回収　異物（金属片）の混入が確認された商品と同一ラインで製造したため　2022/5/18**

**★おやつカンパニー「ベビースター ラーメンおつまみ ピリ辛チキン味」 - 返金／回収　ピーナッツが多量に入っている商品があることを確認したため　2022/5/17**

**★日本緑茶センター「クレイジーレモン ミニ」 - 交換／回収　賞味期限の誤表示（誤：2024.09.01、正：2023.09.01）　2022/5/16**

**★マースジャパン リミテッド「スニッカーズ（ピーナッツシングル、ファンサイズ180g、ミニ、ホワイト）」 - 返金／回収　硬質異物（ガラス片）の混入　2022/5/16**

**★佐藤みや「こしあぶら」 - 返金／回収　放射性物質基準値超過　2022/5/16**

**★日本珈琲貿易「アルバレナ ストロベリーパイ、チョコパイ」 - 返金／回収　カビと思われるものが発生　2022/5/16**

**★マックスバリュ西日本（ザ・ビッグ新市店）「ベーコン（スライス）」 - 返金／回収　消費期限の誤表示（誤：5月9日から12日、正：5月7日）　2022/5/13**

**★下仁田物産「おなか満足蒟蒻ゼリーミックス」 - 交換／回収　シールの不良により稀に軽い衝撃で破袋し液漏れを起こす可能性があり、その際にカビが発生する可能性があるため　2022/5/13**

**★ユウキ食品「四川マーボーソース辛口（花椒粉付）」 - 返金／回収　食品衛生法上で定める一律基準（0.01ppm）を超える農薬（カルボフラン）が検出されたため　2022/5/12**

**★ネスレ日本「ネスカフェ ドルチェ グスト（アイスコーヒーブレンド、オリジナルブレンド）」 - 返金／回収　賞味期限の表示欠落（本来の賞味期限：2022年9月、10月）　2022/5/12**

**６.** **[食中毒・感染症](#食中毒・感染症)**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8068a715873c6ec58e1b8a24b767bfef42745261>

**■***NEW***インフルエンザ（総合ページ）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html>

**★細菌性食中毒★**

**■食中毒事件の発生について　2022/5/14　和歌山県和歌山市**

**カンピロバクター**

<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/044/277/2022051401.pdf>

　（概要）

令和４年５月９日（月）午前１１時５０分頃、医療機関から「下痢、腹痛等の食中毒症状を呈している者を診察した。他にも同様の症状を呈している者がいる。」との届出があった。

調査したところ、当該患者を含む１グループ３名中３名の有症者が確認された。この３名の検便検査を実施したところ、全員からカンピロバクターが検出された。発症前１週間の喫食状況を調査したところ、３名それぞれが共通の知人を含め複数の施設等で喫食があった。また、３名が共通する喫食施設等も複数あることが疑われた。

患者らの発症状況が類似していること、３名の検便からカンピロバクターが検出されたこと及び患者を診察した医師から食中毒の届出があったことから、３名が共通に飲食を行ったいずれかの施設で同菌に汚染された食品を喫食したことによる食中毒と断定したが、複数の施設等で喫食していることにより原因施設の特定には至らなかった。

なお、有症状者は全員快方に向かっている。

１ 発生日時 令和４年５月７日（土） 午後６時頃から

２ 有症者数 ３名（男性 １０歳代）

３ 主な症状 腹痛、下痢、発熱

４ 病因物質 カンピロバクター・ジェジュニ

５ 原因施設 不明

６ 原因等についての調査

・有症状者の喫食状況等の調査及び検便

・喫食施設の調査及び検査

**■コロナ療養施設で食中毒　29人が下痢など発症**

**5/13(金) 18:55配信　朝日新聞デジタル**

**病原性大腸菌O166**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/737b05f63bc6f330428d8c81d87e19521230fc59>

**不利益処分等のお知らせ　2022/5/13　港区**

**病原性大腸菌O166**

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shokuhinkanshi1/kurashi/shokuhin/anzen/kyoka.html>

公表年月日　令和4年5月13日

業種等　飲食店営業（\*注1）

施設の名称　エンゾ　パステリア

不利益処分等を行った理由 食中毒の発生

原因食品　令和4年4月23日に調理し、提供された弁当

原因物質　耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166

主な適用条項　食品衛生法第6条第3号の規定に違反するので改正前同法第55条第1項（\*注2）を適用

不利益処分等の内容　令和4年5月13日から令和4年5月19日（7日間）の営業停止命令

備考

公表時の患者数：29名

大腸菌は人や動物の腸管に存在し、通常病原性はありません。しかし、いくつかの大腸菌は人に対して病原性があり、これらは総称して下痢原性大腸菌と呼ばれています。

下痢原性大腸菌の分類の一つである耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166は、詳細な病原性は未解明ですが、他の自治体でも当該菌による食中毒事例が発生し、それらの有症者のほとんどが下痢を呈したと報告されています。

(\*注1)令和元年政令第123号の附則第2条の規定により、なお従前の例による営業

(\*注2)平成30年法律第46号の第2条の規定による改正前の食品衛生法

**食中毒の発生について～港区内の弁当調製施設が調理した弁当で発生した食中毒～**

**2022/5/13　福祉保健局**

**病原性大腸菌O166**

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/hodo/saishin/pressshokuhin220513.html>

【探知】

　　　令和4年4月24日（日曜日）午前10時に、新宿区内の宿泊療養施設から、新宿区保健所に「4月23日（土曜日）夜から、入所者約130名及び看護師・スタッフ約10名のうち、約30名が下痢の症状を呈している。」旨、連絡があった。

【調査結果】

患者は、当該宿泊療養施設の入所者25名及び看護師・スタッフ4名の計29名で、4月23日午後3時30分から下痢、腹痛等の症状を呈していた。

当該宿泊療養施設では、入所者に朝食、昼食及び夕食の三食を、食事毎に別の弁当調製施設から調達し、提供していた。

看護師・スタッフも、入所者と同じ弁当を喫食していた。

4月23日昼食の弁当残品4検体から耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166を検出した。

患者29名のふん便から耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166を検出した。患者の症状は酷似し、発症時間が集中していた。

弁当残品及び患者ふん便から検出した耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166の遺伝子解析を実施したところ一致し、同一由来と考えられた。

※「astA」の正しい表記は斜体です。

【決定】

　　　本日、港区は、以下の理由により、本件を同区内の弁当調製施設が4月23日に調理し、提供された弁当を原因とする、耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166による食中毒と断定した。

患者は4月23日昼食に提供された弁当を共通して喫食していた。

4月23日昼食の弁当残品及び患者全員のふん便から耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166を検出した。患者の症状は酷似しており、発症時間が集中していた。

弁当残品及び患者ふん便から検出した耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166の遺伝子解析により、4月23日昼食に提供された弁当が原因として考えられた。

患者を診察した医師から食中毒の届出があった。

【措置】

　 　港区は、弁当調製施設に対し、本日から7日間の営業停止の処分を行った。

発症関係（5月13日午前9時現在）

発症日時　4月23日（土曜日）午後3時30分から4月24日（日曜日）午前7時まで

症状 下痢、腹痛等

発症場所　当該宿泊療養施設内、自宅等

患者数　患者数29名　男：18名（17～67歳）、女：11名（24～60歳）

入院患者数　1名（既に回復し、退院済み）

診療医療機関数・受診者数　2か所1名（女1名）

原因食品　4月23日昼食に提供された弁当

病因物質　耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166

原因施設

屋号　エンゾ　パステリア

業種　飲食店営業

[備考]

メニュー　ガパオライス、カリフラワーのピクルス、パクチーサラダ、豚バラ肉と大根の炒め煮、ゆばときくらげの和え物

検査関係（5月13日午前9時現在） 検査実施機関：東京都健康安全研究センター

【患者等】

患者等ふん便：

細菌33検体（32検体耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166　検出、1検体陰性）

ウイルス33検体(33検体陰性)

【原因施設】

調理従事者ふん便：細菌3検体（3検体陰性）

拭き取り検体：細菌10検体（10検体陰性）

食品(検食)：細菌8検体（8検体陰性）

【その他】

食品（宿泊療養施設で保管していた弁当残品）：

細菌9検体 （4検体耐熱性毒素様毒素遺伝子（astA）保有大腸菌Ｏ166検出、2検体黄色　ブドウ球菌検出、5検体陰性）

テーブル

自動的に生成された説明

**★ウイルスによる食中毒★**

**■施設に対する行政処分等の情報　公表年月日：令和4年5月13日　大阪府茨木市**

**ノロウイルス**

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shokuhin/ihan/sisetsuihan.html>

　公表年月日：令和4年5月13日

業種：飲食店営業

施設名称：株式会社木曽路　茨木店

違反の理由：食品衛生法第6条第3号違反

違反の内容：食中毒の発生

措置状況：営業停止2日間

病因物質：ノロウイルス

原因食品：5月5日に提供された食事

患者数：10名

**★寄生虫による食中毒★**

**■食中毒発生状況　2022/5/13　高知県高知市**

**アニサキス**

<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/36/syokutyuudokuhasseijyoukyou.html>

　発生年月日　2022/5/13

　患者数　1

　原因食品　スマガツオの刺身

　原因物質　アニサキス

　原因施設　飲食店

**■アニサキスによる食中毒が発生しました　2022/5/13　佐賀県佐賀市**

**アニサキス**

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00385840/index.html>

　　令和4年5月11日（水曜日）午後2時頃、佐賀市内の医療機関から「アニサキス症の患者を診察した。」との連絡が佐賀中部保健福祉事務所にあり、これを受け、調査を実施したところ、佐賀市内の飲食店で提供された刺身盛り合わせを喫食した者1名が食中毒様症状を呈していることが判明しました。

佐賀中部保健福祉事務所は、当該店舗で調理・提供された刺身盛り合わせを原因食品としたアニサキスによる食中毒と断定し、本日（5月13日）、食品衛生法第6条第3号違反として、営業停止命令（1日間）を行いました。

　県内では、近年、アニサキスによる食中毒が多く発生していますので、別添資料を参考に食中毒の予防に心がけてください。

1　調査内容

(1)発生日時　令和4年5月10日（火曜日）午前1時頃

(2)発生場所　多久市（患者自宅）

(3)原因施設

営業の種類　飲食店営業

屋　号　蛇の目鮨

(4)原因食品　刺身盛り合わせ（タイ、カンパチ、ヒラメ、サバ、イカ、マグロ）

(5)病因物質　アニサキス

(6)摂食者　10名（6グループ）

(7)患者数　1名（60歳代　男性）

(8)摂食年月日　令和4年5月9日（月曜日）午後7時頃

(9)症状　のどの痛み、激しい腹痛

(10)潜伏時間　約6時間

2　食中毒と断定した理由

・患者の症状は、腹部の痛みを主症状とするものであり、受診した医療機関で、内視鏡検査によりアニサキスが検出されたこと

・医師より食中毒患者届出票が提出されたこと

・潜伏時間は約6時間であり、アニサキス症の潜伏時間と一致すること

・喫食状況調査により、患者は発症から遡って3日間、当該店舗での食事以外に魚介類の生食がないこと

以上のことから、上記施設を原因とするアニサキスによる食中毒と断定した。

3　原因施設への措置内容等

(1)行政処分　営業停止命令　令和4年5月13日（1日間）

(2)指導内容

・従事者の衛生教育を徹底し、食中毒の知識等の啓発を行うこと。

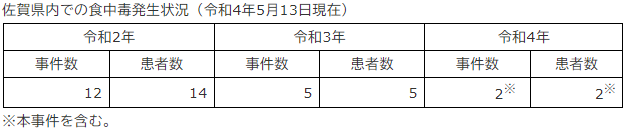
・生食用の魚介類については、アニサキスの排除に関する徹底した衛生管理を行うとともに、冷凍処理後の魚介類の使用を検討すること。

・包丁、まな板、フキンなど器具類の洗浄・消毒を徹底すること。

・施設内の不用品を撤去する等整理整頓を実施し、清掃を徹底すること。

4　その他の情報

・患者は、現在、回復傾向にあります。



**■食中毒の発生について　2022/5/12　神奈川県川崎市**

**アニサキス**

<https://www.city.kawasaki.jp/templates/press/cmsfiles/contents/0000140/140046/040512_syoku_press.pdf>

　　川崎市多摩区内の飲食店を原因施設とする食中毒が発生したのでお知らせします。

１ 探知及び概要

令和４年５月９日（月）、市民から「５月２日(月)に多摩区内の飲食店で喫食後に胃痛を呈し、市内医療機関を受診したところ、アニサキスが確認された。」との連絡が川崎市保健所にありました。

これまでの調査の結果、患者の胃からアニサキスが摘出されたこと、患者を診察した医師から食中毒の届出があったこと、患者の症状及び喫食から発症までの時間がアニサキスによる食中毒の特徴と一致していること並びに患者がアニサキス食中毒の潜伏期間内に喫食した鮮魚介類が当該飲食店で提供された食事のみであることが判明しました。これらのことから本件は、当該施設におけるアニサキス食中毒対策が不十分であることが原因であるとして、施設に対し再発防止を指導するとともに、当該施設を原因施設とする食中毒事件と断定しました。

本市では、引き続き調査を実施しています。

２ 患者数　１人（患者は回復しています。）

３ 発症日時　令和４年５月３日（火）午前１時３０分頃

４ 症状　胃痛

５ 病因物質　アニサキス

６ 原因施設　業 種 飲食店 一般食堂

７ 原因食品　令和４年５月２日（月）に当該施設において調理・提供された食事

参考：喫食メニュー

刺身盛り合わせ（イカ、マグロ、ワラサ、イサキ、キンメダイ）、サラダ、辛子れんこん、ビール等

８ 措置

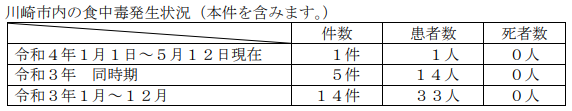
（１）再発防止を指導

（２）営業の一部停止処分　期間 令和４年５月１２日（木）の１日間

　　　範囲 生食用鮮魚介類（冷凍品を除く。）の調理・提供

　　　なお、冷凍品とは－２０℃以下で２４時間以上の冷凍をしたものをいう。

（３）従事者に対して衛生教育を実施予定



**★ウイルスによる感染症★**

**■２つの保育所で「サポウイルス」による感染性胃腸炎の集団発生**

**05月09日　17時16分　岩手 NEWS WEB**

**感染症　サポウイルス**

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/morioka/20220509/6040014219.html>

**★その他関連ニュース★**

**■要注意!! 寄生虫『アニサキス』による“激腹痛食中毒”が全国的に多発！**

**2022年05月18日 17時32分 週刊実話Web**

<https://news.nifty.com/article/domestic/society/12311-1639519/>

**■広島県内でフグ食中毒が増加　コロナ禍での釣り人気影響？**

**2022/5/18　中国新聞デジタル**

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/166247>

**■【感染症情報】感染性胃腸炎が2週連続減少 - 手足口病も減少に転じる**

**5/17(火) 17:35配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2f3e5e1fd48cc5c3a74e31105160a56e8b8b638b>

**■「胃を千枚通しで刺されるような痛み」アニサキス食中毒経験者が語る…有効な処理方法とは？（鳥取）　5/16(月) 19:39配信　TSKさんいん中央テレビ**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5d3838676369ae4bf892ccc9cf8ffbc89498fd6b>

**■胃痛や嘔吐「アニサキス」食中毒　鳥取県で昨年の倍以上のペースで発生…相次ぐ理由は?**

**5/16(月) 16:41配信　BSS山陰放送**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/0a3ecced2cab4cffcb146b60c274df3031c3e15a>

**■アニサキス食中毒相次ぐ　いわき市保健所注意呼びかけ、今年８件**

**2022年05月16日 11時45分　いわき民友新聞**

<https://www.minyu-net.com/news/scramble/FM20220516-704083.php>